

11月号

School Aid Japan Cambodia

スクール・エイド・ジャパン・カンボジア



Dream通信

2009. 11. No.20

岸和田盈進会病院様3回目の医療検診と 株式会社ワタミファーム、武内様による農業指導



岸和田盈進会病院の大住先生

2009年10月11日と13日の2日間にわたり、岸和田盈進会病院様が「夢追う子どもたちの家」を訪問し、3回目となる医療検診を行っていただきました。また同日に株式会社ワタミファームの武内社長も来園され、園の職員と子どもたちに野菜の育て方や肥料の作り方を中心に、3日間農園指導を行っていただきました。

①内科検診



挨拶をする武内社長

園に到着して子どもたちから歓迎の踊りを披露しました。自己紹介をしていただいた後、すぐに内科検診と歯科検診が始まりました。名前の呼ばれた子どもは診察用に準備された部屋に入り、健康診断を受けました。日本からお医者さんが来るということで、子どもたちからは頭痛、腹痛、耳が痛いなど、普段気になっている自分の体調のことについて伝えました。大住先生は園での生活の状況や年齢を確認しながら、1人1人丁寧に子どもたちの診察をしていただきました。今回の検診では、健康に問題がある子どもはいなく、職員も一安心でした。その他には園で保管してある薬の状況を確認していただき、また今回持参していただいた新しい薬の処方について指導をしていただきました。

②歯科検診



健康状態を1人1人確認

内科検診が終わった子どもは、次に別室で歯科検診を受けました。園での生活が長い子どもは、園での食後に1日3回歯ブラシをするよう普段から職員に指導を受けているため、虫歯は少なく先生からも褒められていました。その一方で、園に来て間もない子どもは、以前住んでいた家できちんと歯ブラシをする習慣が身についていなかった子どもが多く、たくさんの虫歯が見つかりました。特に小さい子どもの乳歯に多くの虫歯がありました。大住歯科医師先生からは歯の検診だけでなく、歯磨きの仕方や、虫歯になった歯の今後の処置方法についてアドバイスをいただきました。



子どもの歯の状態も診断



武内社長から農園指導を受ける子どもたち



指導を受けながら種をまきました



刈り取った草を使って有機肥料を作ります



この時の野菜は今も順調に育っています

③農業指導

株式会社ワタミファームの武内社長は今年の3月に引き続き2回目の来園となりました。今回は11日から13日の3日間園を訪問していただき、子どもと職員に農業指導を行っていただきました。

まず最初に「ぼかし」の作り方をご指導いただきました。「ぼかし」とは、日本で昔から使われている、米ぬかを用いた栄養分が高く優れた肥料です。ぬかはカンボジアでは、主に豚などの飼料として使われ、肥料としては使われていません。現地の農園担当職員も、初めて見る日本の肥料作りに真剣に取り組んでいました。

ぼかし作りの後は、畑の畝作りの指導をしていただきました。園に畝立ての機械はないため、全て鍬などによる手作業で行いました。紐を使って真っすぐな線を引き、鍬やスコップで土を盛り上げていきます。健康診断が終わった子どもたちも参加して、立派な畝ができました。

畝を作った後は、武内社長の指導の下、種まきを行いました。何種類もの種をまきましたので、子どもたちは、これからどんな野菜に育つのか、成長が待ち遠しい様子でした。

その後いくつかの野菜は順調に育ち、枝豆などは撒いてから4日で大きな力強い双葉が顔を出していました。そのほかにも堆肥作り、各野菜の育て方、土作りなどをご指導いただきました。

現在園では、毎週農作業の時間を作って、職員と子どもたちが一緒に農業に取り組んでいます。草むしり、野菜の間引き、野菜の水やり、肥料として使う落ち葉拾いや肥料づくり、園の裏にある土地を拡張するための整備などを行っています。低学年、中学年、高学年のグループに分かれ、役割分担を決めて取り組んでいます。土が痩せていて、気候も日本とは違うため失敗することも多いですが、できるだけたくさんの野菜を園で育てていく予定です。

園ではこれからも農作業を通して、子どもたちが働くことの喜びや大切さを学び、自然や食べ物に対する感謝の気持ちを育むことができるように指導していきます。

カンボジアの大変な暑さの中、子どもたちの健康診断をしていただいた岸和田盛進会病院様、そして農業指導をしていただいた株式会社ワタミファームの武内社長様に、心よりお礼を申し上げます。職員一同、子どもたちの健康管理と農業指導に一層努めていきます。